

登録コード:MH241200 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	寄生虫検査学【20M以降】 Parasitology / Medical Zoology		
担当教員	橘 裕司 松本 竹久		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	検査技術科学専攻/ 2 年 後期 火曜・3 時限 火曜・4 時限		
単位数、講義室	1 単位	保健学科 2 2 1 講義室 保健学科形態系実習室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	非該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標
	MH20カリ・保健		
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。	日本国内および海外での寄生虫感染症の動向、また学問としての医動物学の基礎を学ぶことで、実際の寄生虫感染患者の診断がつけられるようにできる。	
	MH25カリ・保健・検査、MH23カリ・保健・検査		
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	日本国内および海外での寄生虫感染症の動向、また学問としての医動物学の基礎を学ぶことで、実際の寄生虫感染患者の診断がつけられるようにできる。	
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	化学療法やワクチン等の基本と病原因子の特性を理解し、寄生虫感染症の課題に対して、グローバルな視点を持って感染制御を考えることができる。	
授業で学べる「テーマ」	環境共生、健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	この科目では、寄生虫感染症の実験室診断を行う上で基礎となる知識や検査法について学修します。わが国では、かつて蔓延していた寄生虫症はほぼ消滅しましたが、一方で「新興・再興感染症」として注目されている寄生虫症もあります。また、WHOが指定する「顧みられない熱帯病」の多くは寄生虫症であり、グローバルな視点では問題となっている疾患です。講義では、多細胞の寄生虫である線虫類・吸虫類・条虫類と単細胞の寄生虫である原虫類を中心に、衛生動物を含めた医動物を対象とします。知っておくべき寄生虫について、形態、生活環と感染経路、疫学、疾患の病態、検査・診断、治療などについて学びます。実習では、寄生虫や感染組織標本の観察を通して寄生虫症を理解すると共に、検査法の実践について学びます。令和7年版臨床検査技師国家試験出題基準に準拠した内容とします。 本授業は、4年次の臨床実習における重要な知識となります。 本授業は寄生虫感染症の研究を行う担当教員がその実務経験を活かして行います。		
授業計画	第 1、2回（9月29日）医動物学総論、寄生虫検査学概論 第 3、4回（10月6日）線虫類各論（回虫、蟯虫、鞭虫、鉤虫、アニサキス、糸状虫、他） 第 5、6回（10月13日）吸虫類各論（住血吸虫、肺吸虫、他）、条虫類各論（裂頭条虫、無鉤条虫、有鉤条虫、他）、実習（線虫類、吸虫類、条虫類） 第 7、8回（10月20日）実習（線虫類、吸虫類、条虫類） 第 9、10回（10月27日）原虫類各論（アメーバ、Lambl鞭毛虫、トリパノソーマ、他）、実習（原虫類） 第 11、12回（11月10日）原虫類各論（マラリア原虫、トキソプラズマ）、実習（原虫類） 第 13、14回（11月17日）実習（原虫類、糞便検査法） 第 15、16回（11月24日）衛生動物各論・実習、試験/授業アンケートの実施		
授業の進め方	講義は主にパワーポイントを用いて進めます。講義前日までに講義の資料をeALPSにアップロードするので、参照してください。資料もパワーポイントで作成していますが、講義スライドの概要であり、同一ではありません。また、講義中に寄生虫の標本や媒介節足動物の標本などを回覧します。 実習では、寄生虫の標本、寄生虫症患者や感染動物由来の組織切片、血液塗抹標本、糞便由来の虫卵やシストのプレパレート標本などを用い、顕微鏡観察を行います。寄生虫の形態、生活環と感染経路、寄生虫症の病理・病態、検査・鑑別法などについて理解を深めることが目的です。		
テキスト、教材、参考書	医動物学 第2版 最新臨床検査学講座 医歯薬出版 参考書： 1. 図説人体寄生虫学 改訂10版 南山堂 2. 寄生虫学テキスト 第4版 文光堂 など 検査法については、臨床検査法提要 改訂第35版 金原出版 pp.1269-1301も参考になります。		
成績評価の方法	医動物学や寄生虫検査法について、講義実習で学んだ内容を十分に理解しているかどうかを授業最終日に実施する筆記試験で確認します。出題形式は、五肢択一形式よりもキーワードを記入するような記述式を中心とし、理解度を判断します。実習は成績には直接反映されませんが、必ず出席するようにしてください。実習で扱った内容も筆記試験の出題範囲とします。		

成績評価の基準	成績は筆記試験で評価し、60点以上で合格とします。点数により以下のような基準で成績をつけます。 100-90点：秀 89-80点：優 79-70点：良 69-60点：可 59点以下：不可
事前事後学習の内容	講義前に講義資料や教科書を読んで予習しておく、講義内容をよりよく理解できます。講義中に重要な点は強調して説明し、資料では赤字やアンダーラインで要点を示します。講義後には知識が定着するように、講義資料と教科書を中心に復習し、試験に備えてください。 本講義の単位修得には45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間30時間（2時間 × 15回）+ 自己学習時間15時間（1時間 × 15回）= 45時間 以上の学習時間を考慮して、事前事後学習に意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	寄生虫は細菌やウイルスとは異なり、肉眼あるいは光学顕微鏡で観察・同定が可能です。教科書の写真だけでなく、できるだけ実物に接して、実体をイメージできるようにしてください。的確に検査・鑑別できることが患者さんの利益につながります。また、寄生虫は病原体ですが、ヒトと同じ真核生物です。長い共進化の過程を経て宿主に適応し、現存している寄生虫はとても興味深い生物でもあります。 質問対応：メールでもよいですが、できるだけ直接に質問してください。また、実習を欠席する際には、必ず事前にメールで連絡してください。 橘 裕司：htachitachi55@gmail.com オフィスアワー：火曜日4時限目の講義終了後、質問・相談に応じます。疑問点はできるだけ早く解決するようにしましょう。